

中津市乳幼児教育振興プログラム

あそびのすすめ



～天は人の上に人をつくらず
人の下に人をつくらずといへり～

平成30年3月

中津市・中津市教育委員会



はじめに

乳幼児期の教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う上で、重要な役割を担っています。子どもの基本的な生活習慣を育て、生活や遊びを通して、豊かな感性、好奇心や探究心等を育み、さらに創造性を豊かにする等、次世代を担う子どもたちが、夢に向かって人生を積み重ねていく土台として大変重要な教育と言えます。

子育て支援に係る環境の変化や多様化する課題に対して、「子ども・子育て支援制度」が平成27年度から本格実施となりました。また、乳幼児教育施設の新しい各要領・指針が平成30年4月1日から同時に実施されることにより、乳幼児教育の内容について、一層の整合性が図られるなど、乳幼児教育の重要性が高まっていると言えます。

中津市は、「暮らし満足No.1」として、子どもの人権を尊重し、「子どもに優しいまちづくり」を目指しています。安心して子育てができる環境整備を進めるとともに、「遊び」を大切に生活や体験を通して、「互いの良さを認め合い、たくましく生きる力」を育む乳幼児教育を推進します。

私たち大人は、乳幼児期における育ちが、その後の一人の人間としての生き方を大きく左右する重要な時期であることを認識し、家庭と地域社会、乳幼児教育施設等が連携を図りながら、保育力・教育力を向上させ、子どもの健やかな成長を支えていく必要があります。

市民からの質の高い乳幼児教育への期待が高まる中、中津市では、中津市子ども・子育て会議内に「幼児教育・保育専門部会」を設置し、本プログラムを策定しました。今後、本プログラムに基づき、具体的な取組が実施されることを望んでいます。

終わりに、本プログラム作成のために、ご尽力いただいた多くの皆様に深く感謝申し上げます。

平成30年3月

*乳幼児教育施設：保育園（所）・認定こども園・幼稚園

目 次

第Ⅰ章 振興プログラムの基本的な考え方	1
1 趣旨	
2 位置づけ	
3 実施期間	
4 乳幼児教育の範囲	
5 中津市基本構想	
第Ⅱ章 中津市における乳幼児期の現状と課題	3
第Ⅲ章 めざす子どもの姿と遊びを育む環境づくり	7
1 遊びの重要性と遊びを通して育まれる力	
2 遊びを支える環境づくり	
3 豊かで力強い「根っこ」	
第Ⅳ章 5つの基本施策	10
1 充実した乳幼児教育の提供	11
(1) 乳幼児の保育・教育環境の充実	
(2) 官民一体となった連携体制の充実	
2 保育士・保育教諭・幼稚園教諭の資質及び専門性の向上	12
(1) 保育士・保育教諭及び幼稚園教諭研修の支援	
(2) 合同研修会の充実	
(3) 研修組織体制の確立	
3 円滑な接続に向けた取組推進	14
(1) 保幼小の連携・交流	
(2) 接続期の教育の重要性	
・カリキュラムの相互理解	
・接続期のイメージ	
・接続期の子ども理解の重要性	
4 特別な支援が必要な子どもに対する総合的支援の推進	19
(1) 対象児の早期発見・早期支援体制の推進	
(2) 関係機関との連携を強化した支援体制の充実	
5 家庭や地域社会との協働の推進	21
(1) 子育て支援の拠点としての役割の充実	
(2) 地域子育て支援の人材育成と交流会等の活性化の推進	

*乳幼児教育振興プログラム作成に至るまでの経緯と作成メンバー

第I章 振興プログラムの基本的な考え方

1 趣旨

本プログラムは、中津市の乳幼児教育の基本的な方向性を示すとともに、主にその実現に向けた市や乳幼児教育施設の役割、行動指針、具体的に取り組む施策の内容や進め方などを示す計画です。

本プログラムは、市内のどこに住んでいても、小学校就学前の子どもに対する豊かな保育・教育の機会が保障されるように、保育所、認定こども園・幼稚園、学校、行政、家庭、地域社会が取り組むべき乳幼児教育に関する指針となります。

2 位置づけ

本プログラムは、「第5次中津市総合計画」（平成29年度～平成38年度）及び「中津市教育大綱」（中津市教育振興基本計画）（平成21年度～平成30年度）に掲げる基本構想と、「なかつ子ども・子育て支援事業計画」（平成27年度～平成31年度）及び「中津市学校教育指導指針」の内容を踏まえ、第3章及び第4章に掲げる項目を中心に、中津市全体の乳幼児教育の更なる充実を目指す「総合的な行動計画」として策定します。

3 実施期間

平成30年度から平成34年度までの5年間とします。

但し、国や県の動向及び乳幼児教育をめぐる状況に応じて、改訂等、適切に対応していくものとします。

4 乳幼児教育の範囲

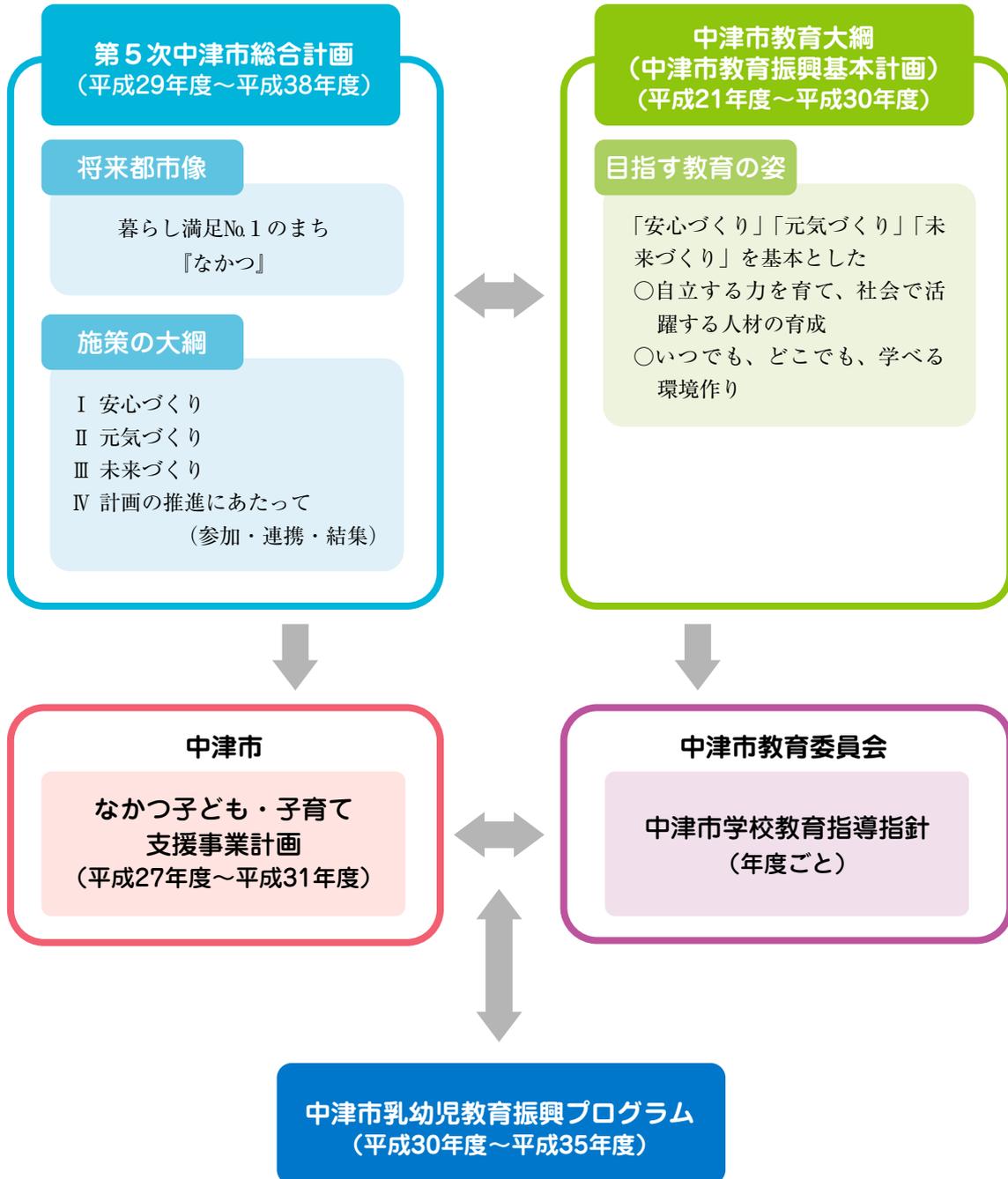
振興プログラムにおける「乳幼児教育」の範囲は、小学校就学前までの子どもを対象とした保育所・認定こども園・幼稚園において行われる保育・教育とします。

ただし、乳幼児教育とは、一人ひとりの主体的な活動を繰り広げる土台となる教育であることを確認し、それによって乳幼児教育と学校教育との連携した取り組みまでを含むものとします。



5 中津市基本構想

中津市の基本構想

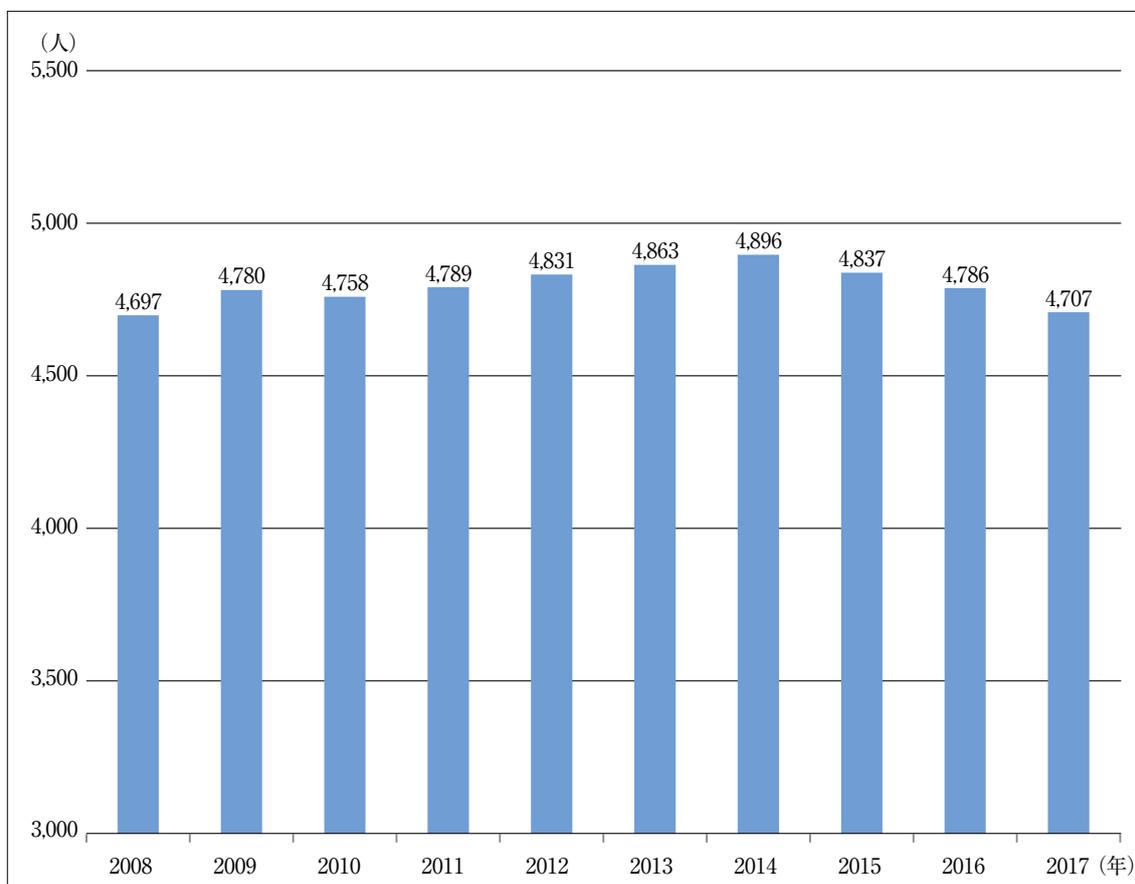


第Ⅱ章 中津市における乳幼児期の現状と課題

乳幼児期の現状

全国的に少子高齢化が進み、人口減少に転じる中、中津市の人口は平成17年3月の合併時に8万6千人に達し、その後、8万人台を推移しています。将来予測においては、人口は徐々に減少していきませんが、乳幼児の人口は横ばいとなっています。

中津市の乳幼児人口（0～5歳）



（毎年5月1日時点）

◎全国的に少子化現象が続いている中で、中津市の乳幼児の人口も、2014年をピークに少しずつ減っている。

3～5歳児 入所（園）児数（広域入所含む）

（平成29年5月1日現在）

		園数（園・所）		就園・入所児数	
幼稚園	公立幼稚園	11	11	380（0）	380（0）
認定こども園	幼稚園型	3	7	549（18）	757（43）
	保育所型	2		73（0）	
	幼保連携型	2		135（25）	
保育所	公立保育所	9	27	320（5）	1,102（42）
	私立保育園	18		782（37）	
合 計				2,239（85）	

※就園・入所児数は中津市の全就園・入所児数（ ）内は市外へ入所している内数

中津市在住の子どもが乳幼児教育施設に通っている人数

（平成29年5月1日現在）

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
幼稚園					12	368
認定こども園	35	83	104	268	275	214
保育所	167	376	416	443	449	210
合 計	202	459	520	711	736	792
対 象 人 口	736	790	781	775	821	804

◎就学前の幼児（3～5歳児）のおよそ9割が『乳幼児教育施設』を利用している。

乳幼児期の課題

中津市でも、核家族の増加、情報化や国際化の進展、地域社会の変化など、社会環境の急激な変化によって、子どもや子どもを取り巻く環境にも様々な問題が生じています。

乳幼児の生活は家庭や地域社会、保育所・認定こども園・幼稚園の中で、連続的に営まれていて、連携して豊かな乳幼児教育を行うことが必要です。しかし、現状では、テレビやゲーム、スマートフォン等を使って一人で遊ぶ場面も増え、泥んこ遊びや木登り、虫捕りなど自然の中で集団で遊ぶことが減り、安全に遊べる場所や機会もだんだんと失われつつあります。

また、思いきり体を動かして遊ぶことが少なくなり、全般的な運動能力の低下も見られます。さらに、集団の中で自分の思いを相手に伝えたり、自分の感情や気持ちのコントロールができにくく、コミュニケーション力の不足やルールを守ったり我慢したりする等の規範意識や自制心を育てる機会がないなどの問題も指摘されています。

近年では、兄弟姉妹が少なく子ども同士よりも大人との関わりの方が多いため、自分から強い思いを発する必要がなく、自ら進んで学ぼうとする意欲が低下してきているとも言われています。

保護者については、少子化等により、自分が子どもをもって初めて赤ちゃんと接する人が増えています。核家族化の進行や地域のつながりの希薄化などから、自らの手で育てたいと思っているにもかかわらず、子どもとの接し方や遊び方など、どのように関わっていけばよいのか悩んでいる保護者も少なくありません。また、過度にマニュアルに頼ったり、不安感や孤独感を募らせたりする状況もあります。



基本的な考え方

子どもの育ちを支えるために重要な役割を果たすものとしては

- ①子どもが保護者からの愛情を受け、多くの時間を過ごす**家庭**
- ②豊かな成長の機会を提供する**地域社会**
- ③より良い人間関係を築くことのできる**集団生活の場**

子どもの健やかな成長を促すためには、家庭・地域社会・乳幼児教育施設等の三者が、それぞれの機能を発揮して、相互に補完し合いながら、役割を果たしていかなければなりません。

家庭

十分な愛情 身辺自立の支援
(排泄・食事・着替え等)
心の基地 (心休まる居場所)



地域社会

様々な人たちとの交流
身近な自然・文化との触れ合い
社会におけるルールの獲得
子育てに関する学習会

集団生活の場

(保育所・認定こども園・幼稚園・小中学校)

自然・文化・社会に触れ、
豊かさに出会う場
集団活動による社会性の育ち
保育士・教諭の専門的援助・保育・教育
中学生の乳幼児教育施設体験・キャリア教育

第三章 めざす子どもの姿と遊びを育む環境づくり

やる気・げん気・自分の夢に向かう中津っ子

1 遊びの重要性と遊びを通して育まれる力

乳幼児は、「生活」や「遊び」といった「直接的・具体的な体験」を通して、情緒的、知的な発達、社会性等、社会の一員として「よりよく生きるための基礎」を身につけていきます。「遊び」には、成長や心身の発達にとって、重要な体験がたくさん含まれていると言えるのです。

遊びを通して味わう楽しさや困難さは、自分で向かっていこうとするやる気を生み、「遊び」を通して人と関わることは、心や体が充実し、その後の将来において、自分の道を切り拓いていく確かな力となっていきます。

中津市では、このような「遊び」の重要性を踏まえ、「遊び」の中で、次世代を生きる子どもにとって大切な資質や能力を育み、「やる気・げん気・自分の夢に向かう中津っ子」をめざした乳幼児教育を推進します。

遊びのステージ

遊びの出会いは、子どもの興味・関心をもった身近な環境との関わりから始まります。「やりたい」という自発性から**遊び出す**ことにつながります。時を忘れ、**夢中になって遊ぶ**中で、子どもの気づきがさらに関わりを深めます。試行錯誤し、**遊びこむ**ことで、充実感や挫折感等、様々な感情を覚えるとともに、遊びの楽しさや面白さは増してきます。そして、十分に**遊びきる**ことで、心地よい満足感や達成感を感じることができるのです。一人ひとりが自己発揮しながら友だちと十分に関わって「遊びきる」ことで、**自己充実感**を味わうことができます。

このように、遊びには、「**遊びのステージ**」があると、言われています。



たのしかったあ！
やったあ、できた！

遊びきる

こんなことができたよ。
こんどはあれもやってみよう。

遊びこむ

遊ぶ

おもしろいなあ。
あれをつかってみようか。
あれもためしてみよう。

よし、やってみよう。
一緒にやろう。

遊び出す

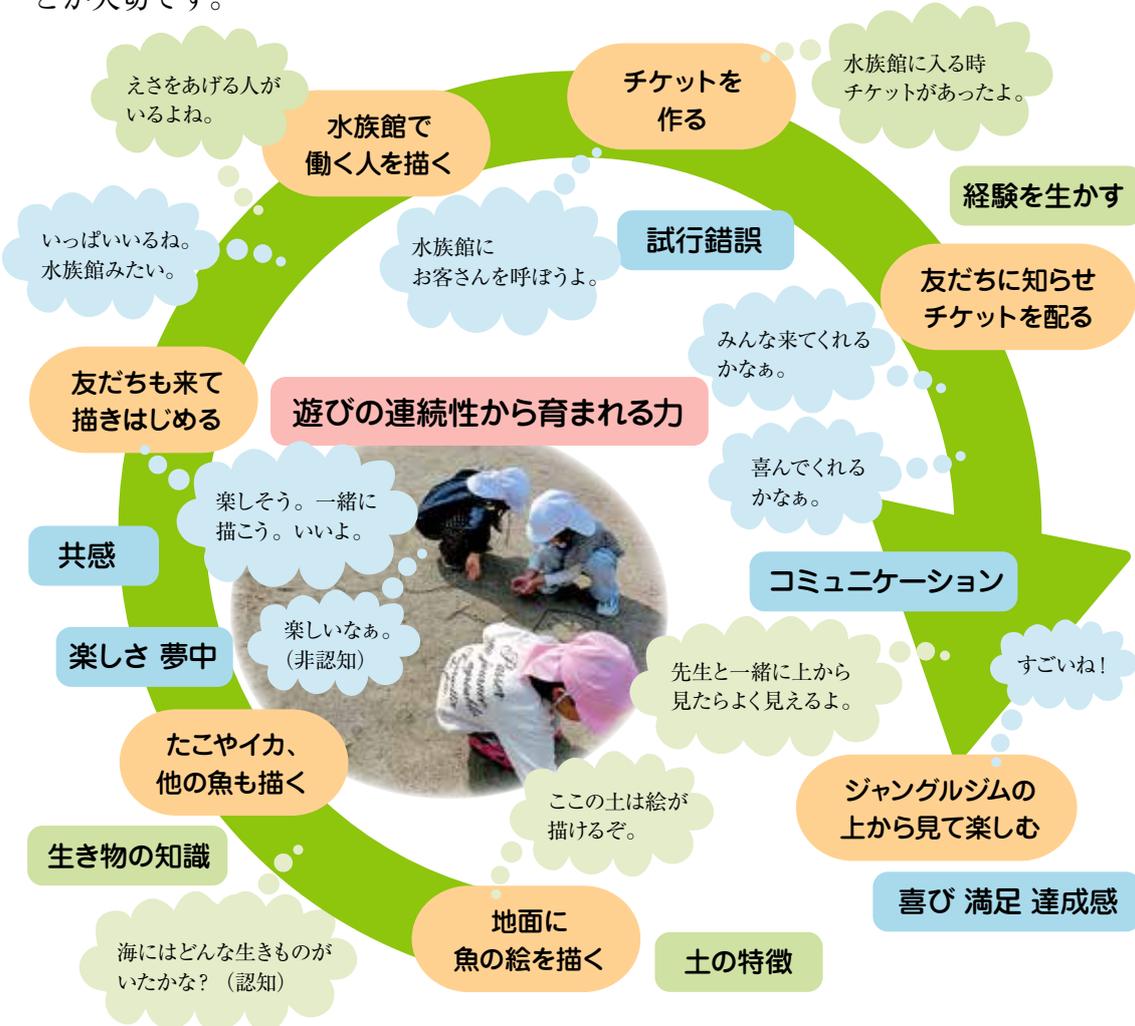
遊びに出会う

おもしろそうだなあ。
なんだろう。
できるかな。



2 遊びを支える環境づくり

安全の確保・安定、安心した情緒の下、主体的に環境に関わり遊びのプロセスを深めていきます。重要なのは、遊びに没頭し充実感を味わうことです。子ども一人ひとりの思いや願いを理解し、**人・もの・空間・時間・自然という環境を整える**ことが大切です。



一人の子どもの興味・関心から始まった遊びが、友達と共有される中で、共に工夫したり、協力したりしながら、展開されていく一例です。砂場遊びやお店屋さんごっこ、忍者ごっこ等、様々な遊びの中で、自分らしさを十分に発揮し、そして環境と関わりながら**連続性**を持ったものになっていきます。**自己肯定感**を育てるとともに**相手の思いに気づき互いに認め合う気持ち**を育てることにつながっていくのです。

幼児期に特徴的な発達として「非認知的能力」があります。「非認知的能力」とは、目標に向かって頑張る力、人と関わる力、感情をコントロールする力等です。一方、言語や算数に関すること等のIQ等で測れる力を「認知的能力」と言います。これらが、互いに影響し合いながら成長していきます。（*上図：青→非認知的能力 緑→認知的能力）

3 豊かで力強い「根っこ」

人間を「1本の木」に例えると、乳幼児期は体の基盤をしっかりと固定し支え、成長に必要な成分を吸収する、生きていく上で重要な基礎となる「根」の部分になります。芽が出て、木が少しずつ大きく育ち、しっかりとした太い幹となって多くの葉を茂らせ、たくさんの花や実をつけるたくましい木となるように、「根」である乳幼児期を大切に育てることが重要です。



第Ⅳ章 5つの基本施策

中津市では、乳幼児教育の充実を図るため、5つの基本施策を重点的に実施していきます。



1

充実した乳幼児教育の提供

目標

子育てまちづくりと市民ニーズの視点に立った乳幼児教育の充実を図る。

- (1) 乳幼児の保育・教育環境の充実
- (2) 官民一体となった連携体制の充実



2

保育士・保育教諭・幼稚園教諭の資質及び専門性の向上

目標

急速な社会変化に伴う乳幼児教育の多様な展開に対応するため、保育士・保育教諭及び幼稚園教諭の資質及び専門性の向上を図る。

- (1) 保育士・保育教諭及び幼稚園教諭研修の支援
- (2) 合同研修会の充実
- (3) 研修組織体制の確立



3

円滑な接続に向けた取組推進

目標

保育所・認定こども園・幼稚園等における乳幼児教育の内容を学校生活に活かせるよう、乳幼児教育と学校教育との連携・接続の強化を図る。

- (1) 保幼小の連携・交流
- (2) 接続期の教育の重要性
 - ・カリキュラムの相互理解
 - ・接続期のイメージ
 - ・接続期の子ども理解の重要性



4

特別な支援が必要な子どもに対する総合的支援の推進

目標

特別な支援が必要な子どもに対して、早期からの一貫した効果的・専門的な支援体制の充実を図る。

- (1) 対象児の早期発見・早期支援体制の推進
- (2) 関係機関との連携を強化した支援体制の充実



5

家庭や地域社会との協働の推進

目標

地域の子育て支援の拠点として、家庭の支援や地域との連携の強化を図る。

- (1) 子育て支援の拠点としての役割の充実
- (2) 地域子育て支援の人材育成と交流会等の活性化の推進

1 充実した乳幼児教育の提供

【目標】 子育てまちづくりと市民ニーズの視点に立った乳幼児教育の充実を図る。

(1) 乳幼児の保育・教育環境の充実

①保育・教育事業の充実

保育士・保育教諭・幼稚園教諭の育成・確保対策や保育施設の整備補助、保育需要に即した効果的な保育・教育施設の配置の見直し等により、待機児童の解消を図ります。

②保育士として働くための貸付・補助制度の設置

貸付制度として『大分県保育士修学資金貸付制度』及び『大分県保育士就職準備金貸付制度』の2つがあります。また、補助制度として『中津市保育士等奨学金返還補助制度』を開始し、人材確保に努めます。

③乳幼児教育事業の充実

幼稚園空白地域での『認定こども園』の実施や市内のどの地域でも保育・教育の質的向上とともに教育・保育ニーズに対応できる環境づくりに努めます。

④放課後児童健全育成・預かり事業の充実

『放課後児童クラブの専用施設整備』や『余裕教室等の活用』『きめ細かな運営支援』『長期休業期間に限定した利用』『預かり保育の延長』等、多様なニーズに対応しながら、子育て支援の充実を図ります。

⑤連携した子育て支援

妊娠期から連携した相談支援体制を構築するため、『地域子育て拠点事業』『利用者支援事業』の充実を図るほか、地域の実情に応じた『子育て世代包括支援センター』の運営に努めます。

また、出生時に、子どもの成長を20歳になるまで記録できる母子健康手帳を配付し将来にわたり役立てるようにサポートします。



母子健康手帳

⑥親子が集う場の環境整備

『児童館』や『地域子育て支援拠点』及び『屋内遊び場』や『屋外大型遊具施設』の整備を進めます。

(2) 官民一体となった連携体制の充実

平成25年度より「中津市子ども・子育て会議」を開催し、幼児教育に関する現状と課題、方策等を総合的に検討する会議を開催しております。平成28年度は、園長、小学校校長・PTA、専門家等で構成する「幼児教育・保育専門部会」を設置し、官民一体となった組織で、より良い乳幼児教育についての協議を行います。

2 保育士・保育教諭・幼稚園教諭の資質及び専門性の向上

【目標】 急速な社会変化に伴う乳幼児教育の多様な展開に対応するため、保育士・保育教諭及び幼稚園教諭の資質及び専門性の向上を図る。

(1) 保育士・保育教諭及び幼稚園教諭研修の支援

① 県が実施する研修への参加

大分県では、大分県保育連合会に委託し「設置者・所（園）長研修会」「新任職員研修会」「主任保育士・主幹保育教諭研修会」「食育推進研修会」を実施しています。

中津市では、全乳幼児教育施設が研修に参加できるよう積極的に働きかけます。

② 資質及び専門性の向上に向けての取り組み

各クラスや幼児一人ひとりの状況に応じた援助・保育を行うためには、各乳幼児教育施設内で、実態に応じた指導方法の評価・改善を進めていくことが重要です。

そのために、各乳幼児教育施設内に外部指導者（初任者研修指導員・中津支援学校コーディネーター・指導主事等）を派遣し、具体的な援助の方法について研修する機会を保障します。また、保育コーディネーターが組織的に機能していくためにサポートし、各園での活用推進に向けて取り組みを進めていきます。

(2) 合同研修会の充実

① 保幼小連携に係る研修会（平成23年度～）

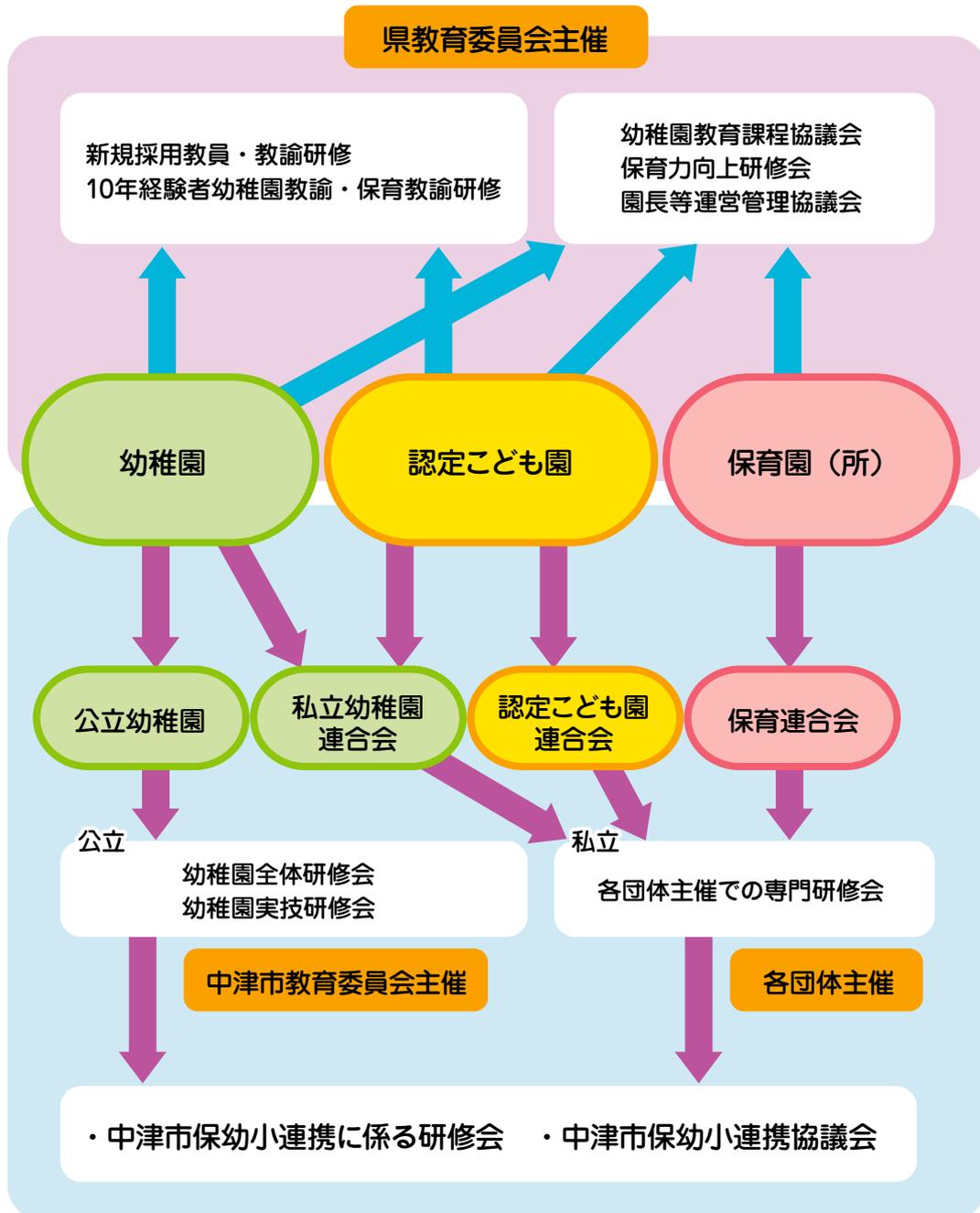
全保育所・認定こども園・幼稚園の保育士及び保育教諭・幼稚園教諭・小学校教諭を対象とした研修会を開催し、共通課題での実践発表や情報交換会等を設け、資質及び専門性の向上を図ります。

「接続期の子ども理解」「接続期のカリキュラム」等について協議・研修の場を設けます。

② 乳幼児教育全体研修会の開催

乳幼児教育に関わる関係者（保育関係者・教育・市職員等）を対象に研修会を開催し、乳幼児教育の理解、地域経済に与える影響、専門研修の重要性等の共通理解を図ります。

(3) 研修組織体制の確立



3 円滑な接続に向けた取組推進

【目標】 保育所・認定こども園・幼稚園等における乳幼児教育の内容を学校生活に活かせるよう、乳幼児教育と学校教育との連携・接続の強化を図る。

(1) 保幼小の連携・交流

① 保育所・認定こども園・幼稚園との連携・接続の強化

保育士・保育教諭・幼稚園教諭がお互いに学んだり伝えたりしたいことをコーディネートし、交流できる場を提供します。

- ・ 保育士・保育教諭・幼稚園教諭の自発的な交流の場をサポートします。
- ・ 行事等により就学前の子どもの交流を通して、保育・教育の情報交換の機会を設定することを推進します。

② 保育所・認定こども園・幼稚園と小学校等との連携・接続の強化

《乳幼児と小学生との「交流」の推進》

- ・ 乳幼児教育施設の行事に小学生が参加したり、小学校のカリキュラムの中で一緒に活動したりする等、連携・接続に向けた取組を推進します。
- ・ 「入学説明会」時に、小学生が学校案内をする等の連携に関わる取組を紹介しています。



《保育士・保育教諭・幼稚園教諭・小学校教諭等の「交流」の推進》

- ・ 参観日等での相互参観を通して、子どもの姿から理解を深めます。

幼児の生活の様子や遊びの中での育ち

小学生の生活の様子や学びあう姿

お互いに理解を深め、カリキュラムの見直しにつなぐ。

- ・ 「中津市保幼小連携協議会」において、接続期の子どもの姿やお互いのカリキュラム等について情報交換し、カリキュラムの相互理解を深めます。
- ・ 小学校との連絡会を充実させ、一人ひとりの育ちや援助について小学校へしっかりと引き継ぎ、入学後の指導に生かします。
- ・ 保育コーディネーターを中心に、支援が必要な子どもの家庭との連携・具体的な支援方法等を、小学校へ引き継ぎます。

(2) 接続期の教育の重要性

◇カリキュラムの相互理解

発達や学びの連続性の観点から、乳幼児教育から小学校教育への移行に配慮したアプローチカリキュラム・スタートカリキュラム等のカリキュラムの編成や指導計画作成について、研究や実践を進めます。

アプローチカリキュラムの実践例

(一部抜粋)

期	9月～10月	11月～12月	1月～3月
ねらい	生活する力	<ul style="list-style-type: none"> ○週の予定や1日のながれがわかり、見通しをもって生活する。 ○和式トイレになれる。 ○衣服を調節できるようになる。 <p>生活や遊びの中で身につけている姿を示している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○正しい姿勢に関心を持ち、自分で気をつける。 ○昼食を一定の時間内に食べる。 ○入学への喜びや期待を膨らませ、成長の自覚を持って行動する。
	学び表現する力	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な自然に触れ、よく見たり考えたりして、季節の変化に気付くと共に、自然物を使って様々な遊びを楽しむ。 ○生活の中で、文字・数・図形に関心を高める。 ○新しい事や少し難しい事にも挑戦しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○冬の自然に関心を持ち取り入れて遊んだり、動植物の様子から季節の移り変わりに気付いたりする。 ○自分のイメージを動きや言葉で表現し演じて遊ぶ楽しさを味わう。 ○日常生活に必要な文字・数等に関心を持ち遊びの中に取り入れる。
	人と関わる力	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○困っている友達に気づき、助けたり励ましたりする。 ○共通の目的に向かって協力し取り組む。 <p>保幼小でつきたい力を共通認識する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○戸外遊びに意欲的に取り組み、友達と一緒に遊びを発展させる。 ○遊びの計画や手順を友達と話し合い、相手の気持ちに気づき協力して遊びを進める。 ○友達との関わりの中で信頼関係を持ち遊びや仕事を最後までやり通す。
ねらいにつながるあそび(活動)	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動(小学校との運動会練習・応援合戦・開会式・1,2年生と踊りの練習等) ・ルールのある遊び(リレー・団体競技等) ・自然を使った遊び(虫取り・色水等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を使った遊び(木の実・落ち葉等) ・挑戦遊び(竹馬・渡り棒・登り棒・鉄棒・ホッピング・大縄跳び等) ・伝承遊び(けん玉・お手玉・こま・あやとり・まりつき等) ・紙芝居作り ・お店ごっこ ・短縄跳び 	<ul style="list-style-type: none"> ・郵便ごっこ ・ドッジボール ・オペレッタ ・合奏 ・言葉遊び(しりとり・なぞなぞ等) ・お正月遊び ・雪氷遊び ・小学校探検 ・授業見学 ・お別れ遠足(小学生と一緒に)
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○大運動会に向けて、無理にならないよう生活の時間帯を考える。 ○競い合ったり、数えたり比べたりする中で、数や量、順位や位置に興味をもたせていく。 ○自分達で相談したり、協力したりしながら、生活や遊びが楽しめるよう場や時間の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活や体験の中で得た感動を、伝え合ったり共感し合ったりする。また、伝えられる場を設ける。 ○話し合いの場で消極的な子には、思いを引き出しやすい雰囲気をつくる。 ○様々な活動の中で、子ども同士のつながりを更に深められるよう援助する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラス全体やグループで意欲を持って取り組んだり、遊びや行事を計画したり、発展させたりする場を用意する。 ○子ども達が自分達の成長を自覚でき、成長した姿を周りの人に見てもらえるような場を設ける。

主体的な活動が生まれる環境構成を行っている。

H28 三保幼稚園の実践例

スタートカリキュラムの実践例

小学校校区での教職員の情報交換・研修を深め、子どもの育ちをふまえたカリキュラムを作成していきます。

子どもたちが、新しい環境の中で安心して、自分らしさを表現し、自分のもっている力を発揮し、成長への意欲を高められるように、活動や環境の工夫をしていきます。

学校全体で取り組むことで、全教職員が共通理解し、子どもの成長を見守っていきます。

〈第2週〉学校大好き はじめまして学校（学校生活の様子がわかる）（一部抜粋）

	16日(月)	17日(火)	18日(水)	19日(木)	20日(金)
8:30 朝の活動	登校したら荷物の整理・トイレ、席についてお絵かき・読書 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">なかよしタイム</div> 朝のあいさつと健康観察・1日の予定確認 歌・ゲーム・読み聞かせ				
8:50 1校時	【体】 ならびっこ	【音・生】 うたでさんぽ	【生】 学校たんけん②	【生】 学校たんけん③	【学】 対面式
9:35	【国・生】 はじめて書く名前 どうぞよろしく	ぞうさんのさんぽ	もう一度たんけんし たいな	もう一度行って見た い場所はどこかな	みなさんよろしく
9:40 2校時	じこしょうかい	【体・算】 体操服に着替えよう	【生・算】 校庭たんけん		【行】 お迎え遠足 6年生と手をつない で歩こう
10:25	学校たんけん①	じゅんばん	遊具の使い方 10までの数		
10:45 3校時	学校にはどんなところ があるのかな	【図】 みなさん よろしく	【算】 かずあそび	【体】 ならびっこ 遊具で遊ぼう	
11:35 4校時	【学】 手を洗おう お盆に ナプキンをしく マ スクをして6年生が 準備するのをよく見 よう	【学】 みんなで給食の準備 をしよう	【国】 えんぴつの持ち方	【国】 えんぴつで なぞろう	みんなとお弁当を食 べよう 一緒に遊ぼう
給食時間	楽 し い 給 食				
自問清掃	主体的な活動ができる ように時間枠をつなげる などの工夫をする。		自分の場所をきれいにしよう		安全に気を付けて帰 ろう
14:05 5校時			【音】 手と手であいさつ ちょうちょ	参観授業 【国】 えんぴつを持って書 いてみよう	
14:50					
下校指導	見送り指導	見送り指導	一斉下校		

H28 三保小学校の実践例

とに加え、到達すべき目標ではないこと等、この文言に対する理解と取り扱いに関して、留意する必要性が明文化されています。

小学校の新学習指導要領が、その前文において「幼児期の教育の基礎の上に、中学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通し」、また、総則第2の4学校段階等間の接続の項において、「特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう」と、幼児期を基礎とした接続期の捉え方を記載するように、子ども理解に基づいた、発達に逆行しない活動の展開が接続期を円滑にすることが繰り返して記されています。

重要なのは、子どもたち一人ひとりが遊びを通して自らの中に育てている育ちの姿を、接続期にかかわる保育者・小学校教員が共に見聞きし、発達の流れをおさえた子ども理解を深めていくことだといえます。

自らの力で『やる気』を喚起し、自らや他者を大切にしながら関わっていくことで『げん気』を養い、その『やる気』と『げん気』を軸に『自分の夢に向かう』力強い『中津っ子』の素地を培う接続期を、家庭や地域との連携において育てていきたいと思えます。

<表1 生きる力の基礎を育むための資質・能力>

- 生きる力の基礎を育むため、次に掲げる資質・能力を一体的に育むこと
- (1) 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする
「知識及び技能の基礎」
 - (2) 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」
 - (3) 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする
「学びに向かう力、人間性等」
- (幼保連携型認定こども園教育・保育要領 第1章 総則 第1・3)
(幼稚園教育要領 第1章 総則 第2)
(保育所保育指針 第1章 総則 第4)



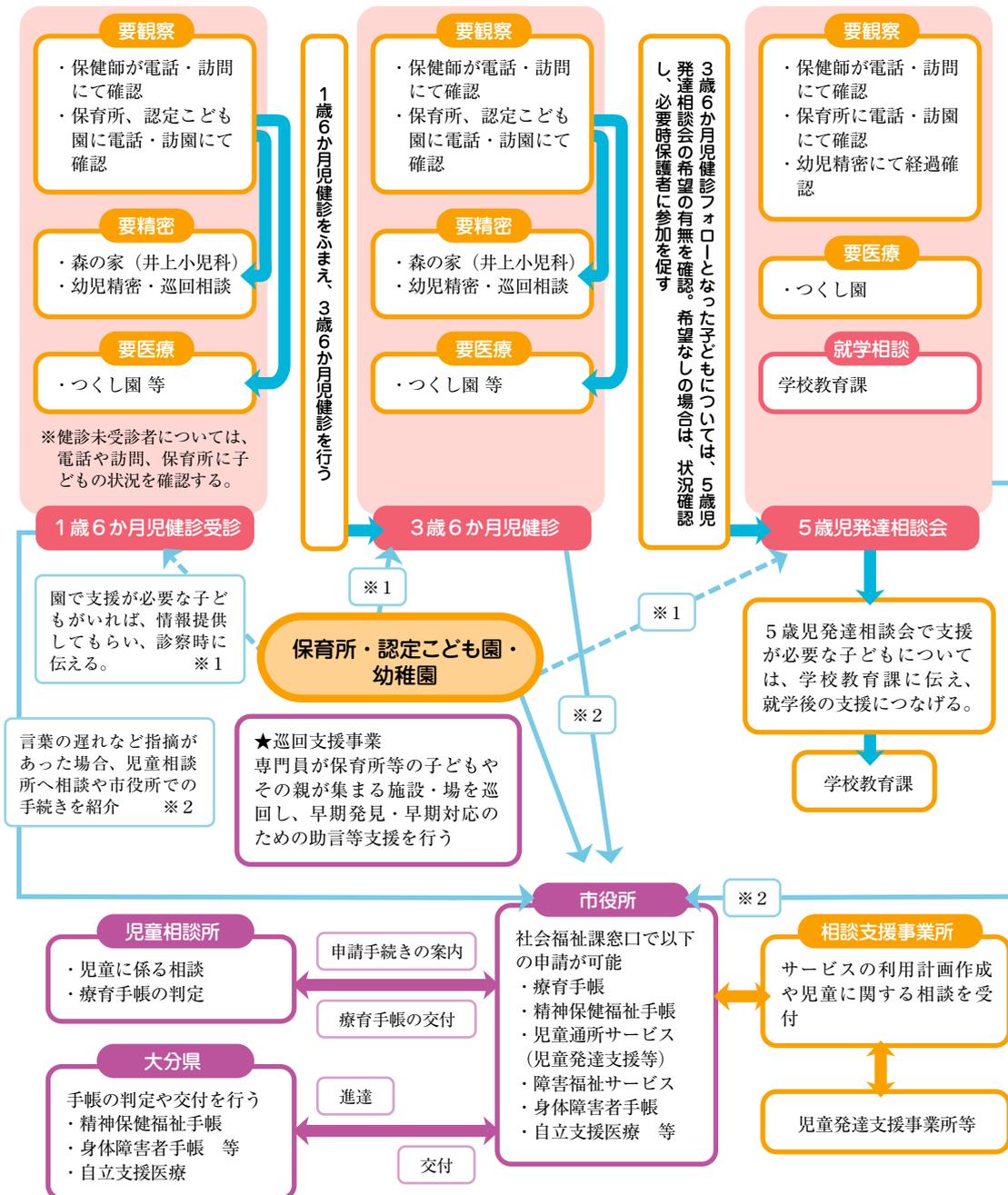
4 特別な支援が必要な子どもに対する総合的支援の推進

【目標】 特別な支援が必要な子どもに対して、早期からの一貫した効果的・専門的な支援体制の充実を図る。

(1) 対象児の早期発見・早期支援体制の推進

関係機関と関係課（「子育て支援課」「地域医療対策課」「社会福祉課」「学校教育課」等）が連携し、支援体制の連携・強化を図ります。

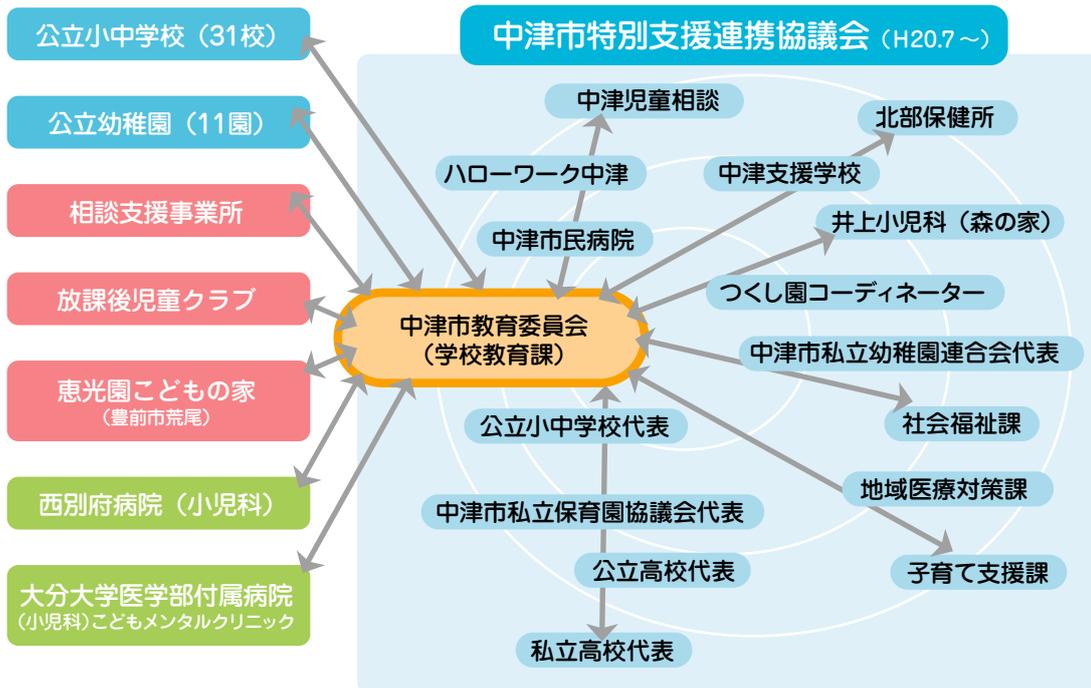
母子保健事業での早期発見支援



(2) 関係機関との連携を強化した支援体制の充実

平成20年7月に、大分県下でも、いち早く「中津市特別支援連携協議会」を発足し、中津市在住の発達障がいを含めた障がいのある幼児児童生徒に対する教育支援体制の整備を図るとともに、支援の在り方に向けた協議を行っています。

関係機関との連携（特別支援教育関係）



相談支援ファイル(あすなろ)の活用

〈目的〉一人ひとりの発達に応じて、必要な支援が生涯にわたって継続して行われ、本人の「自立」と「社会参加」に向けて役立つ資料になることを願い、「あすなろ」ファイルは作成されています。(平成25年～)

5 家庭や地域社会との協働の推進

【目標】 地域の子育て支援の拠点として、家庭の支援や地域との連携の強化を図る。

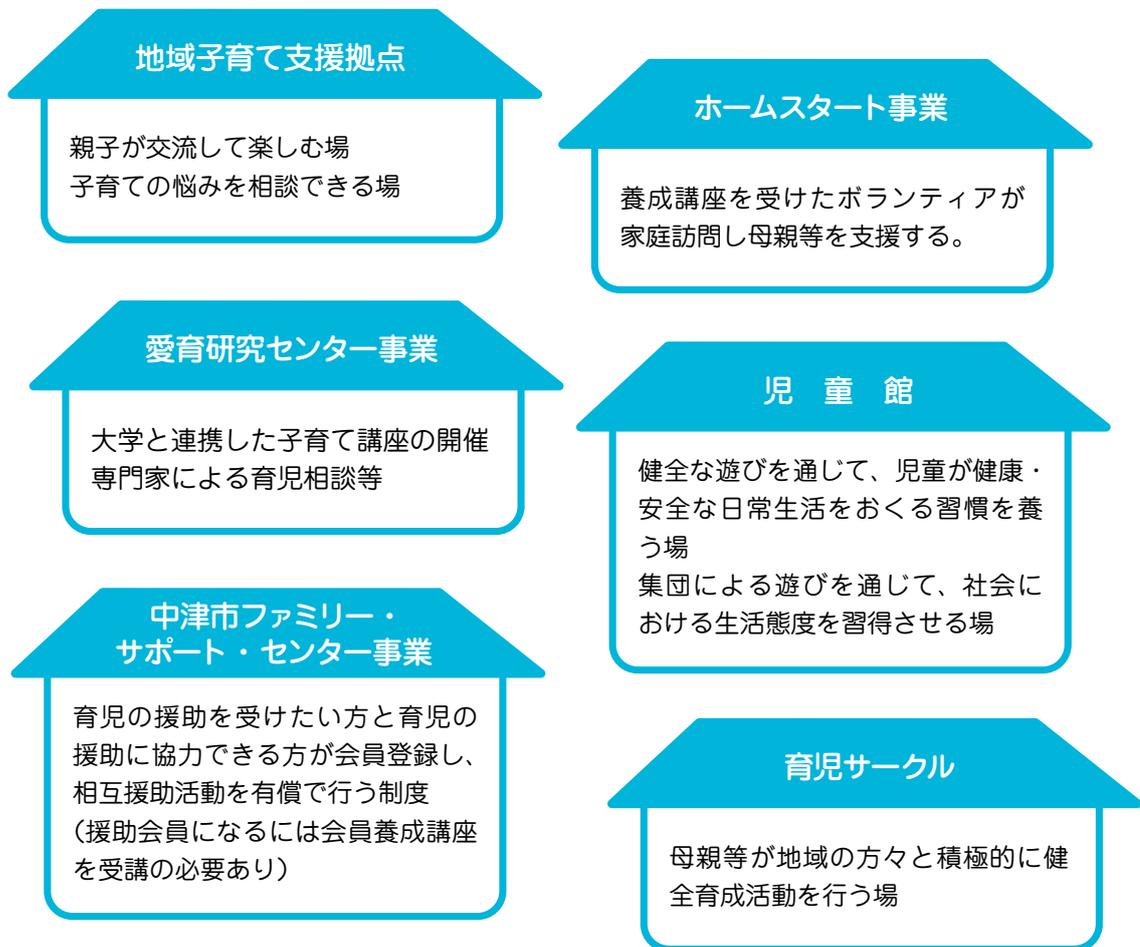
(1) 子育て支援の拠点としての役割の充実

幼稚園、保育園等が、地域における乳幼児期の教育のセンターとしての役割を果たすように努め、子育ての支援を行っていきます。

- (1) 子育て相談
- (2) 保護者の保育参加
- (3) 未就園児の親子登園
- (4) 園庭の開放
- (5) 子育てサークル等の支援
- (6) 子育て講座・講演会

(2) 地域子育て支援の人材育成と交流会等の活性化の推進

中津市では、地域の中で「子育てが楽しい」と実感できるように、家庭に対する育児相談や子育てサークルの支援等により、子育てしやすい環境づくりを推進します。



乳幼児教育振興プログラム作成に至るまでの経緯

- 平成28年7月 第1回幼児教育・保育専門部会
・プログラム作成のながれを提示
- 平成28年10月 第2回幼児教育・保育専門部会
・西南学院大学 門田 理世 教授による講演
- 平成28年11月 第1回幼児教育振興プログラム作業部会
- 平成28年11月 第2回幼児教育振興プログラム作業部会
- 平成28年12月 幼児教育振興プログラムに関する研修事業
- 平成28年12月 第3回幼児教育振興プログラム作業部会
- 平成29年1月 第4回幼児教育振興プログラム作業部会
- 平成29年2月 第3回幼児教育・保育専門部会
- 平成29年3月 第13回中津市子ども子育て会議
- 平成29年3月 第4回幼児教育・保育専門部会
- 平成29年6月 第5回幼児教育・保育専門部会
- 平成29年8月 第14回中津市子ども子育て会議
- 平成29年9月 第6回幼児教育・保育専門部会
- 平成29年11月 第7回幼児教育・保育専門部会
- 平成30年1月 第15回中津市子ども子育て会議

幼児教育・保育専門部会委員

【助言者等】

西南学院大学教授	門 田 理 世
東九州短期大学教授	尾 家 京 子
中津市教育長	廣 畑 功

【委員】

双葉ヶ丘幼稚園長	土 居 孝 信 (部会長)	
中津市PTA連合会副会長	佐々木 敬次郎 (28年度)	三重野 玉 江 (29年度)
めぐみ幼稚園保護者	田 中 雅 也	
沖代保育園長	上 田 健 二	
グレース保育園保護者	甲 斐 裕 之	
中津市小学校校長会長	友 松 康 樹 (28年度)	坂 田 博 司 (29年度)
中津市公立幼稚園長会長	真 正 浩 二 (28年度)	藤 本 裕 一 (29年度)
教育次長	白木原 忠 (28年度)	粟 田 英 代 (29年度)
福祉部長	奥 田 吉 弘	

中津市乳幼児教育振興プログラム

平成30年3月

編集・発行／中津市教育委員会 学校教育課
中津市福祉部 子育て支援課